

カンボジア・ニュースレター 第6号

《2016年11月7日—12月6日》

「あなたの口を広く開けよ。わたしが、それを満たそう。」(詩篇 81:10)

主にある御祈り手の皆様方には日々、御祈りを捧げて頂き、見守りを与えられて今日まで支えられて参りましたこと、心から感謝申しあげます。

11月7日、祈りの答えとして遂に道が開かれたカンボジア直行便の座席に身を委ね、感謝の祈りを捧げて第2回目の宣教旅行を出発。この度の旅の目的は米国の支援者との会合、本部の土地、建物の支援が可能かどうか、を相談する為でしたが、代表者 Dick 氏の奥様の肺癌の発見と手術の為にこられなくなったとの事で、主たる目的が果たせない俛、チケットを購入した後なので、とに角、主の御心がなされる事を信じて出発をしました。乗り換えなしで一気に5時間20分の旅! なんとという恵でしょうか!

追風の故でしょうか、一時間速く飛行場に到着! 案の定、誰も迎えに出ておられず、一時間を暑い日ざしの中に待つのも賢くない、とカンボジア国内用の携帯電話を買い求めもっていた電話番号の Mark 宣教師と連絡が取れた事は感謝でした。驚いて駆けつけてこられた Vandy 師と Mark 宣教師の歓迎とお詫びの言葉にホッとして家路に(?)つき、懐かしい我が家の鉄門を開け、一息いれ、3ヶ月間の夫々の側からの報告、成田空港で買い求めたお土産のお菓子を味わいながら立ち話の語らい時をもち、Vandy 師の促しに従ってその俛、荷物もあけずにショッピングにでかけ、とに角最低限の必要品を買い求めてきました。夕食は Vandy 家に働かせてもらっている一人の信徒の奥さんがお料理をして下さり、抜群にお料理の上手な方、と伺っておりましたので楽しみに食卓につき、成程! と感心しながら久しぶりのカンボジアの味を堪能させて頂きました。名前はミミさんですが、読み書きは出来ないという事で、英語も通じないために、Vandy 師の通訳を通してしか通じ合えない悲しさ! 然し、この度は彼女が午前中だけ私の家で掃除、料理を主に働き、午後からは Vandy 家で働くという結構な段取りに感謝、...でしたが買い物を頼むにしても字も読めない、英語も通じない、という困難さに閉口です。

到着した夜はさすがに疲れていたのでしょう、(自分では気がつきませんでした、)荷物も充分に開くこともせず、シャワーを浴びて(然もヒーターがまだ取り付けられていなかったため、予想外に水が冷たく、震えるようなシャワーでした)、直ぐにベッドに向かいましたが、その頃から血圧が上がってきたような気がしたので、計ったところ、案の定、上も下も桁外れに高い数値が記録されたので、祈って全ての業を明日に回して休む事にしました。第一日目!

感謝なことに朝には血圧も平常に戻っており、荷物や部屋の片付けに終日を費やし、ミミさんのお料理の昼食もおいしく頂き、少しずついつもの生活に戻り出して感謝。金曜日は恒例の伝道者の祈祷会。第一回目なのでメッセージを整えて準備しておりましたが、御言を通して主が語り出て下さった事を感謝しました。霊的にもっと力が与えられ、祈りにも信仰の確信を得られる祈りが捧げられる事を願わされております。

翌日、土曜日に最初の巡回旅行、平信徒伝道師レアック師のサトウキビ農場の視察を兼ねて出発。2時間余りのドライブで到着、そこでお昼ご飯の為に野鳥を捕獲して焼き鳥の予定、網を仕掛けたのはよいけれど、結局収穫はたったの一羽、待っている間に近くの信徒の御夫婦を訪問、バイクの後ろに乗せてもらって出かけ、訪問を終えて農場に

帰ると一羽だけ捕まった可哀想な犠牲者を見せて下さった。(写真は捕獲された小鳥)  
感謝なことに(?)一羽だけの捕獲では焼き鳥もできず、夕方前に次の目的地、シエムリア



ップ地方の教会(アンコールワットの教会)に向かって出発。今回はレアック師の御家族、ソチエタ姉と一歳のニコールちゃんも同行されたので、車中の交わりも楽しいひと時で、約4時間強のドライブもそんなに疲れを感じさせない旅でした。聖日礼拝にはシンガポールからの牧師さんが説教者として招かれていたので私達はご挨拶のみ、礼拝を終えると直ぐにもう一つの開拓中の伝道所に向かいました。丁度この

聖日を挟んで一週間は水の祭りの最中でボートレースがあるためにそちらに出かけたり、プノンペンに出て親族達との交わりがもたれる慣習の為、出席者は15, 6名でしたが、聖書をもっている人は2人か3人、然も無料で配布される小さな新約聖書だけで、賛美歌といえは2冊しかありません。日曜日の集会で御言を開かせて頂き、翌日の月曜日は午後から青年の集いがある、というのでそれに出席をしてから3時ごろには帰路に、と予定して集会に出席しました。なんと青年達というよりも昨日の出席者の面々が主たる出席者でしたが、そこでも御言を開いて欲しい、と突然の依頼に戸惑いましたが、示された御言を開いて信仰の成長を励まし、聖書を読むクリスチャンとなるようにチャレンジを与える機会が与えられた事は意味深い事でした。



ちなみに聖書は旧新と繋がって読まなければいけないので、新約聖書を読み終えた人に旧新約聖書をプレゼントしますので頑張ってくださいと伝道者サムエル師に

100ドル(聖書11冊分位)をお渡しする事ができた事も大きな恵でした。集会が終わったのは3時頃、直ぐにプノンペン市に向けて出発、途中、野原の真ん中にタライのようなスーパームーンが現れ、行く道を照らす景色は写真に収めておくべきだった、と残念でしたが、見事な月夜の旅を味わいました。家に到着したのは9時半頃、長い道のりをドライブして下さったレアック師に心からの感謝と御祝福を御祈りしました。

車中の会話も大切な信仰のチャレンジのひとつで、長時間の語らいも貴重な牧会や伝道の語らいの時となり恵の旅となりました。間もなく帰国の時がきますが、まだまだ教会として自立するには時間を要する忍耐一筋のカンボジア宣教の為に、特に経済的な戦いの中に信仰を学びながら戦っておられる現地の伝道者方に、救霊と教会建設のスピリットが燃え続けることを切に御祈り下さい。12月6日の帰国前に来週、29日に理事会(ボードミーティング)が持たれ、今後の為に話し合いがもたれます。特に本部となる固定した場所が備えられるよう御祈りと話し合う予定ですので、覚えてお祈り頂きたくお願い申しあげてこの一ヶ月の宣教報告、ホンの一部だけを御報告致します。在主、蔦田